

要介護者の急変時対応チャート

患者さんの様子がおかしい！

状態を確認して下さい

倒れていない

倒れている

意識の確認をする

その方法①

意識の反応あり

意識の反応あり

家族など関係者へ連絡する

大声で呼びかけて、意識反応の有無を確認する。
かかりつけ医・担当嘱託医・施設長等に連絡し、状態を伝え、指示に従って下さい。

救急車を要請する場合には可能な限り、本人または家族に
救急車要請の同意を確認する事が望ましい

119番に通報
AEDを取り寄せる

気道を確保し「循環のサイン(体動・呼吸・心臓)」を確認をする

その方法②

循環のサイン無し

その方法③
心肺蘇生を実行

「循環のサイン」を再確認

循環のサイン“無し”で AEDが…

AEDが無い

その方法③
心肺蘇生を継続

AEDがある

AEDを使用

救急車・救急隊が到着

救急隊が
来るまでに
できる事



要介護者の急変時の緊急対応と流れ



要介護者の身体の急変時には状態と状況に応じた早急な対応が必要となります。要介護者の家族への連絡や要介護者の状態を確認し「かかりつけ医」「担当嘱託医」「施設長」等により詳細な情報を的確に伝える事が大切です。「急変時の対応」「緊急時の対応」は、あらかじめマニュアル等を作成しておくことにより、迅速かつ円滑な対応が可能となります。

緊急時の対応には、救急車の要請が必要となりますが、この場合には、本人または家族の同意のもとに救急車を要請する事で、より円滑な対応につながります。そして緊急対応には迅速な救命処置が必要となります。要介護者の循環のサインを「見る・聞く・感じる」で確認して下さい。左にその流れを説明します。下記には詳しい方法、説明が記されています。

その方法① 大声で呼びかけて、意識反応の有無を確認する。
「うつ伏せ」状態の場合は、慎重に回転させ、「仰向け」にする。

その方法② 正常に呼吸をしているかを確認「見る・聞く・感じる」(5秒以上10秒以内)。
呼吸がない時は、頭部後屈(あご先挙上法)により気道確保し、鼻をつまみ、塞いで人工呼吸を2回行う(各1秒程度)。
注意 「喘ぎ(死戦期呼吸)」は呼吸ではありません。

循環のサインの確認「見る・聞く・感じる」

「正常な呼吸」・「せき」・「体動(身体のどこか)」の確認になります。脳と心臓に酸素を送るには血液の循環が必要です。耳を口・鼻に近づけ呼吸を聞き、胸の動き、せきの有無を見て、頬で吸気を感じています。サインを出していない場合には、血液が送られない可能性が高く、早急に心臓マッサージの必要性があります。確認には10秒以上かけてはいけません。また、確認に自信が持てない場合は心臓マッサージを開始して下さい。

1. Mouth to Mouth 人工呼吸を2回行います(それぞれ1秒)
2. CPR (cardiopulmonary resuscitation) CPR(心肺蘇生)の開始

① 心臓マッサージ(胸骨圧迫)30回

1分間に100回のテンポで強く、早く心臓を圧迫し、圧迫毎に力を抜き胸壁が元の位置に戻るようにします。これを30回行います。

② 人工呼吸2回

頭部後屈(あご先挙上法)により気道を確保し、鼻をつまみ、塞いで人工呼吸を2回行う(各1秒程度)吹き込んだ際に胸の上りを確認します。

③ ①②を繰り返し、「循環のサイン」が確認できるまで、又はAEDが到着するまで継続します。既にAEDの準備のある場合は①②を5サイクル行います。

心肺蘇生(CPR)の重要性 CPR (cardiopulmonary resuscitation)

様々な要因により引き起された心停止に対して、CPRは非常に重要です。心室細動による突然の心停止から3分~5分以内に速やかにCPR及び徐細動が行われた場合、生存率は約50%といわれています。CPRが行われない場合は心停止から1分毎に生存率は7~10%低下します。心停止から徐細動までの時間にもありますが、CPRにより生存率は2~3倍に上がります。

状況、状態に応じて、AEDを使用して下さい。AEDが心臓のリズムを調べ、電気ショックの必要があるか否かを正確に判断します。使い方は簡単です。AEDの電源を入れると、音声や電気信号、文章メッセージにより、救助者にどのような手順を取るべきかを的確に教えてくれます。以下の状態には注意が必要です。

- ① 傷病者が水で濡れている状態
- ② 湿布薬剤を胸に貼っている状態
- ③ 傷病者が植込み型ペースメーカー、徐細動器を使用している状態

AED(自動身体外式除細動器) AED (Automated External Defibrillator)

AEDはコンピューター化された医療機器です。傷病者の心臓のリズムを調べ、治療のために電気ショックの必要があるかないかを判断します。AEDの診断は正確であり使い方も簡単で、音声や電気信号、文章メッセージにより救助者がどのような手順を取るべきかを的確に教えてくれます。